

# 総合型選抜 2023 年度過去問題 建築デザイン学科

次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

『2戸合体リノベ団地、人気 若い世代に照準、内装も売り』

隣り合う二つの住居を一つにつなげた上でリノベーション（改造）した物件を、大阪府住宅供給公社が「ニコイチ」と呼んで供給に力を入れている。高齢化や空き家の増加に悩む団地に若い家族を呼び込むための「秘策」は、大阪の外にも広がり出した。

大阪府堺市の泉北ニュータウンの一角にある「茶山台団地」。白石千帆さん（39）は2016年3月、夫の転勤を機に家族4人で東京から引っ越してきた。選んだ部屋は、改修したばかりの「ニコイチ」で90平方メートル。子どもたちの部屋を確保できるため、ここを選んだ。

45平方メートルの部屋の壁を取り払い、住居を二つ、つなげたつくりのため、「初めて来た人は、中に入るとびっくりする」と白石さん。家賃は月7万～8万円で、堺市からは所得に応じた補助も出る。

団地は2016年度には990戸のうち2割近くが空き家で、名義人の半数超が60歳以上だった。

エレベーターの無い団地では、高齢者は上層階を嫌がり、空き家が増える。若い世帯がいないと、自治会も立ちゆかなくなる。

団地を所有・管理する供給公社は、若い家族連れを増やそうと知恵を絞り、2014年度からリノベーションを始めた。だが、入居希望者が集まらない。「子どもがいると狭い」と指摘され、ニコイチを手がけ始めた。

内装などのデザインも特徴だ。リフォーム会社や設計事務所などからデザインを募集。住む人に合わせ複数の間取りを用意する。部屋数もさまざまで、自転車を置くためのガレージを設けた部屋もある。

担当者は「風呂を設けるなど、住環境を整えるために2戸を1戸にする手法は以前からある。だが、ニコイチは若い世帯のライフスタイルに合わせてデザインした点が新しい」と話す。

供給公社は昨年度までに、大阪府寝屋川市の「香里三井C団地」にも広げ、計19戸のニコイチを供給した。中学生以下の子どもがいるか、夫婦合わせて80歳以下の世帯限定での募集でも、応募は最大11倍に達したため、2018年度は一気に20戸で募集する計画だ。

ニコイチには、兵庫県や埼玉県など各地の公社の担当者が視察に訪れている。神奈川県住宅供給公社は大阪を参考に、同県相模原市の団地で2戸を1戸につくり替えるリノベーションを実施する。早ければ9月ごろから入居者を迎える計画だという。

（出典：朝日新聞 2018 年 5 月 8 日朝刊 [大阪本社版]。承認番号「22-2988」朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。

文章の一部に変更を加えている）

問1 「ニコイチ」が近年このように注目されているのはなぜでしょうか。その理由について、本文の内容をふまえて、300字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

問2 団地のリノベーションの社会的な意義について、あなた自身の自由な意見を500字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。